

# 平成 28 年度 事業計画書

《自平成 28 年 4 月 1 日～至平成 29 年 3 月 31 日》

公益財団法人 電気科学技術奨励会

## 【 事業計画 】

本公益財団法人の平成 28 年度の事業計画としては、次の諸事業を予定している。

### 1. 「第 64 回電気科学技術奨励賞」の贈呈

「第 64 回電気科学技術奨励賞」については、電気科学技術の分野において優れた業績をあげ、今後更に顕著な研究成果が期待される研究者・技術者を顕彰するとともに賞状並びに奨励助成金及び記念楯を贈呈する。

なお、推薦候補者の募集・選考については、研究者、技術者の意欲の向上に寄与し、更なる電気科学技術の発展に資することを目的として、電気科学技術に関する広範な分野において研究・技術開発に携わる方々を産業界、大学・工業高専、公設試験研究機関等の団体を対象として広く公募し、公平、公正かつ厳正な審査により授賞者を選考していく。最近の傾向としては、大学、工業高専等の教育関係者のうち、とりわけ工業高専からは教育関係のみならず技術関係の応募も多くなっている。しかしながら、大学からの応募が少ないのが現状である。局面打開のため、案内状による直接の呼びかけ、更にホームページを活用した情報の提供などを広報する一方、英語、中国語、韓国語版での呼びかけ等の積極的な情報発信により受賞候補者推薦公募を精力的に行う。

また、平成 23 年度から研究開発における技術情報の重要性が増大していることに鑑み、各学会からのインダストリアルペーパー（実務家の経験・ノウハウを分析・分類し、体系化して共有化することを目的とするペーパー）の論文執筆者は奨励賞に該当するとの判断から、各学会から推薦された場合は審査の対象とすることとした。平成 26 年度に応募された一般社団法人 情報処理学会からの推薦候補がこれに該当するものである。また授賞作として採択された。

### 2. 電気科学技術奨励学生賞の贈呈による研究助成金

平成 21 年度より次世代を担う優秀な大学院生・大学生を対象として、わが国で開催される国際的な学会等への参加費を助成して、グローバル化に対応した若い研究者・技術者の人材育成に資することとしている。

近年、わが国で開催される国際的な学会は増加しており、大学院生・大学生の意識も変化し、指導教員等の尽力と併せて参加者も増えている。しかしながら、国際的な学会

の参加費は、学生にとっては大きな負担となることを踏まえ、有為な研究者・技術者を育成する観点から電気科学技術関係の主要な 5 学会（電気学会、電子情報通信学会、情報処理学会、映像情報メディア学会、照明学会、以上敬称略）の理解と協力の下、内外を問わず優れた論文発表を行った学生を顕彰するとともに、賞状及び研究助成金を贈呈するものである。

具体的には、電気科学技術関係の主要な 5 学会が国内で開催する国際会議において、公募して論文発表に応じた国内及び海外の大学院生・大学生を対象に、当該学会の論文委員会等の協力を得て、毎年 10 名程度を上限に優秀者を選考し、公益財団法人 電気科学技術奨励会会長名の賞状と研究助成金を贈呈する。

平成 21 年度の第 1 回から平成 27 年度の第 7 回までに表彰した地域と人数は、海外 13 地域 20 名、国内 10 地区 26 名、表彰者計 46 名（平成 27 年 3 月末現在）となっている。

5 学会のみの推薦を避けるため、ホームページ等で広く呼びかけるほか、各大学に応募案内を送付し全国大で広く周知している。各大学もこれに呼応して、大学のホームページで応募を呼びかけて載っている。本年は、ICEMS(International Conference on Electrical Machines and Systems: 電気機器及びシステムの分野における国際会議)を対象として取り組んでいる。

### 3. 「第 55 回電気科学技術講演会」の開催

「電気科学技術講演会」は、文部科学省主催の科学技術週間参加行事の一環として実施している。本年度の「第 55 回電気科学技術講演会」は、4 月 13 日（水）に東京・北の丸公園 科学技術館「サイエンスホール」にて開催する。講演会の入場料は無料で一般の人を含め全国から 400 名程度の聴講者を目標として広く参加を呼びかける。

本事業については、従前通り、文部科学省、一般社団法人 電気学会、公益社団法人 日本電気技術者協会、株式会社 オーム社の後援、協力を得るとともに、公益財団法人日本科学技術振興財団の協賛を戴く。

第 55 回の講演会は、演題を『産業・社会システムとサイバーセキュリティ』とし、講師として以下に掲げる権威者 6 名の方をお願いしている。なお、演題と講師は、下記の通りである。

- ・何故今サイバーセキュリティか

（公益財団法人 電気科学技術奨励会 会長・東京電機大学 学長）

工学博士 安田 浩氏

- ・マイナンバーとサイバーセキュリティ

（内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室長代理）

向井 治紀氏

- ・東京オリンピック・パラリンピックとサイバーセキュリティ

（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 テクノロジーサービス局長）

舘 剛司氏

- ・スマートメーターとサイバーセキュリティ  
(東京電力株式会社 スマートメーター推進室 室長) 久世 祐輔氏
  
- ・ロボット・自動車とサイバーセキュリティ  
(国立研究開発法人 産業技術総合研究所 ロボットイノベーション研究センター  
副研究センター長) 工学博士 大場 光太郎氏
  
- ・医療とサイバーセキュリティ  
(東京医療保健大学 学事顧問 NTT 東日本関東病院名誉院長)  
医学博士 落合 慈之氏

#### 4. 海外技術者との交流

海外の研究者や技術者の来日の機会を捉え、技術者、研究開発者との交流を図る努力をしている。現状では、電気科学技術奨励学生賞の授賞式に参加の学生及び指導教員との交流が主になっている。

海外の研究者・技術者の交流は、ホームページ等で公開し、講演会、シンポジウム等で周知し、その内容、結果等は広くホームページ等で公開することとしたい。一方、学生賞授賞者等の交流は、授賞式当日の懇親会等に対応することとする。

以 上